

文化芸術懇談会（長崎県）報告

日時：平成18年6月5日（月）14：00～16：45

会場：長崎ブリックホール 国際会議場

主催：文化庁，長崎県

参加者数：319名

内容は以下のとおり

- 13：30～14：00 受付
- 14：00～14：25 アトラクション
～長崎歴史文化博物館所蔵の古楽器による演奏～
- 14：25～14：30 開会行事・主催者挨拶
金子原二郎氏（長崎県知事），河合隼雄氏（文化庁長官）
- 14：30～15：30 シンポジウム「地域文化の振興と文化施設の新しいあり方」
パネリスト
大堀 哲氏（長崎歴史文化博物館長）
村嶋寿深子氏（シーハットおおむら館長）
河合隼雄（文化庁長官）
コーディネーター
脇田安大氏（財団法人ながさき地域政策研究所理事長）
- 15：30～15：45 休憩
- 15：45～16：45 公聴会
「文化芸術の振興に関する基本的な方針の見直しについて」
説明者
青木 保氏（文化審議会文化政策部会長）
出席者
河合隼雄氏（文化庁長官）
- 16：45 閉会

公聴会意見要旨

○郷土芸能振興

- ・ 底辺を支える農村が高齢化・混住化していることで継承，運営が厳しい。
- ・ 農水省とも連携して，地域芸能に目を向けて欲しい。
- ・ 基本方針 p.10「メディア芸術の振興」について，同 p.9「支援及び評価の充実」にある定性的な評価を願う

○長崎おじか国際音楽祭実行委員

- ・ 第1 1. 文化芸術の振興の必要性
③「質の高い経済活動の実現」
- ・ 「多くの産業の発展に寄与し得るもの」
地方において自主的な文化芸術の振興の取り組みを促すためにはもう少し前端的に打ち出して欲しい。
- ・ 従来のハードの公共事業一辺倒の経済政策から文化芸術を主題においた地域経済活性化政策への転換を図る必要性を痛感しているので，地方自治をつかさどっている総務省との連携を図って欲しい。

- ・ 方針の「国の役割」の基本にある「文化芸術の頂点の伸長」「文化芸術裾野の拡大」「文化芸術の国際交流」の基本的な取り組みを規模は小さいながら行っているが対象になりえないという実態があるということを理解して欲しい。
- ・ 地域でやることだから地域と限定せず、またそれを担う団体の規定や内容の規定など助成対象の枠についても柔軟な姿勢が欲しい。
- ・ 地方の企業にはメセナ活動に理解がない。もっとメセナ活動を促す啓蒙活動を望む。

○雲仙市教育委員会生涯学習課

- ・ 子どもに対する文化事業を発信して欲しい。
- ・ 行政主導から住民主導へと事業のあり方を変えるためにコーディネーター、地域リーダーの育成を図って欲しい。

○テレビ会社

- ・ 基本方針第1 の1にある「人間が人間らしく生きるための糧」「共に生きる社会の基盤の形成」「質の高い経済活動の実現」「人類の真の発展への貢献」「世界平和の礎」のスタンスは永遠に変えないで欲しい。
- ・ テレビ局は情報、娯楽、文化をバランスよくニーズに合わせて発信している。“国家の品格”が成り立っていくように文化庁からも指導してもらいたい。

○F's Company(長崎市劇団)

- ・ 地域を離れずやりたい人にサポート制度を充実してほしい。
- ・ 行政の文化予算の削減もあり、なかなか活動が継続できない。成功しているのに後押しされていない。支援が末端まで届いていない。
- ・ 「文化施設の充実」とあるが、活動(練習)の場が十分でない。発表する場は増えているが、練習の場はない。

○活水女子大学

- ・ 古典文学を若年層が知らない。制度的な問題。基本方針 p.17「日本語ボランティア」に加えて古典を教えるボランティア育成を提言したい。

○その他

- ・ 地方では博物館、美術館は重荷と考える。力強い方策を示して欲しい。

○文化施設担当

- ・ フランスでは文化に投資して経済を活性化している。
- ・ 基本方針 p.25「民間の支援活動の活性化等」における「税制措置」に関して、現在、法人税50%、株の売買は10%だがバランスの見直しが必要で、文化活性の目的税と位置づけでとればいい。テレビ局は地方文化の活性で東京からオーケストラを呼ぶなどして赤字。法人税の免除制度を取り入れてほしい。文化会館でありながら法人税をとられるのもおかしい。

アンケート意見要旨

○公聴会のテーマ「文化芸術の振興に関する基本的な方針」の見直しについて、御意見があればお書きください。

- ・ 子ども文化事業について、重点的な方策をさらに練っていただきたい。
- ・ 段階に合った会場の充実も見て欲しい。
- ・ 人材育成に力を入れて欲しいと願っています。
- ・ 「努める」→「する」と具体的な方針から具体策へかえて下さい。絵に描いた方針に対する評価を行ってください。

- 文化には金がかかる。美術館・博物館等文化施設で儲かるはずがない。施設を通じて人が育ち、そういう人たちがさらに豊かな文化を創るという形が望ましいと思う。
- 生涯学習的な人間の生きる力に関わることなので予算、応援をお願いしたい。私の町では音楽・芸能と食文化を一緒に考えて公民館でやっている。
- わが国では「文化」「芸術」が具体的にどう経済や地域づくりに結びついていくのか、わかりやすく明らかにしていく必要がある。
- 市町村合併により旧自治体(教委を含む)の支援と連携により育まれていた地域文化活動が、合併後、施設管理上などの理由により、施設の活用が難しくなってきた。地域には地域性の深い文化活動や生活文化活動がある。行政の管理上の理由により、このような文化活動を抑止されるのはおかしい。
- 文化施設職員への教育、研修機会を増やしてほしい。
- 企業メセナについて、自治体のみならず民間に対しても情報発信することが肝要。
- 文化は本物にこそ訴えかける力があり、それに共感したものがそれを継承し、発展させると考えます。子どもたちに本物を体験してもらいたい。
- 文化振興法の基本的な方向や主旨は大変結構だと思うが、それが各市町村レベルでは十分に反映されていない気がする。国の方針が県から市町村へといくにつれて、だんだんそのパワーが落ちて、なかなか市民(国民)が生き生きと文化活動を行うためのよりどころとなっていないのが残念。

文化芸術懇談会（神奈川県・横浜市）報告

日時：平成18年6月13日（火）18：30～21：00

会場：横浜赤レンガ倉庫1号館・ホール

主催：文化庁，神奈川県，横浜市

参加者数：260名

内容は以下のとおり

18：00～18：30 受付

18：30～18：50 アトラクション

～河合長官と神奈川フィル団員による室内演奏～

18：50～19：50 シンポジウム

「地域から文化で日本を元気に！～協働・連携による地域文化の創造・発信～」

パネリスト

松沢成文氏（神奈川県知事）

山崎洋子氏（作家）

河合隼雄氏（文化庁長官）

コーディネーター

吉本光宏氏（ニッセイ基礎研究所芸術文化プロジェクト室長）

19：50～20：00 休憩

20：00～21：00 公聴会

「文化芸術の振興に関する基本的な方針の見直しについて」

説明者（青木 保 文化審議会文化政策部会長）

出席者（河合隼雄，吉本光宏）

21：00 閉 会

神奈川県公聴会意見要旨

○特定非営利活動法人 ARCSHIP

- ・ ある特定のジャンルに偏らず、様々なジャンルで活動している団体にとって意義のあるものであってほしい。
- ・ 場の創出を行うべき団体側の成長が不可欠であり、補助金を出すだけでなく、税務・労務を担当するスタッフの育成に力を入れて欲しい。
- ・ 何事においても東京一極集中である昨今、地方で自立できる環境・ネットワーク作りが必要。
- ・ 「協働」という名のもとで単なる予算の削減に利用しないで欲しい。行政側の要望と各団体のノウハウを合致させ、良い結果を作るための「協働」を望む。（その為には各団体の組織としての成長が不可欠）

○横浜STスポット

- ・ 基本方針 p.20 の「(4)学校教育における文化芸術活動の充実」において、文化芸術に関する体験学習など教育の充実、地域の芸術家等による指導を図るべき。
- ・ 「学校への芸術家等派遣事業」について、学校と地域の芸術家や団体の仲介者役となる「コーディネーター謝金」を支払えるシステムに変更することが望ましい。

- ・ アート NPO の立場から「芸術拠点形成事業」(公演事業等支援)について、現状では、支援活動に要する経費の1/3が限度であり、アート NPO の立場では、支援申請の前提となる自己負担金の確保が難しい面があり、申請しにくい側面がある。

○クリエイティブステップ横浜実行委員会

- ・ 児童青少年の芸術文化の鑑賞機会を充実すべき。
- ・ 文化施設を充実すべき。
- ・ 助成制度の健全な活用を図るべき。

○横浜演劇計画

- ・ 演劇を作る過程に於ける稽古場や、舞台美術などの制作に必要とされる作業場などがあまりになさすぎる。公共施設も不足しており、あっても21時閉館など、現実的に厳しい。
- ・ 劇場空間なども規模的に半端なものが多く、真に育成をするべき若手作家などの試行錯誤に相応しい小劇場的規模(100人規模)のものが少ない。

神奈川県アンケート意見要旨

○公聴会のテーマ「文化芸術の振興に関する基本的な方針」の見直しについて、御意見があればお書きください。

- ・ 文化の発信者側の立場(音楽、舞台、伝統等)の違いにより受けとめ方が異なると思われる。できるかぎりの公平性が求められると思う。
- ・ 日本では娘のピアノの月謝は安くはない。未来の文化を担う子供たちに、もっと身近に音楽に触れる機会を作って欲しい。
- ・ 世代を越えて、わらべ歌の遊びを通して世代間交流し、古きものを伝承し心を育てている。是非関心を寄せて欲しい。大きな力になると思う。
- ・ NPOの自立は営利企業以上に難しい。これらの課題が解決しなければNPOはたくさん作られても活動停止とならざるを得ない。
- ・ 少子化にともない学校が余るが、校舎は文化活動にはうってつけ、活かして使う工夫を。
- ・ 良い芸術は真摯な教育からできる。ハコやお金だけではなく人とのネットワークを作りナレッジをつむことも重要である。
- ・ 指定管理者制度については大きな問題として取り上げてもらいたい。地方都市で文化芸術、創造発信の拠点施設は市の政策を実現するステージである。この制度の問題点を国としても指摘して欲しい。文化施設の特異性は一般的に理解してもらえない。
- ・ 各種公共施設の使用時間(特に夜間)の延長を実現して欲しい。その施設の維持のための人材は広くボランティアを登録するなどして正規の職員の残業代を浮かすようにすれば実現可能だと思う。
- ・ 国、県、市町村、NPO、企業等の役割分担をさらに明確に示して欲しい。
- ・ 子供たちに日本語の感覚が(特に音色、リズム)きちんと浸透しないと、これからの伝統芸能が続いていかない。能の太鼓の皮を作る技術や漆塗りなどの材料が手に入らなくなっている。その他、装束や面など、芸能の周辺のことにも目を配って欲しい。

(参考)

「文化芸術懇談会」について

1. 開催趣旨

文化芸術振興基本法に基づいて、各地域の文化芸術関係者や住民と文化芸術の振興に関し、広く意見の交換等を行うことにより、今後の文化芸術振興施策の充実に資する。

※意見交換等事項例

- 文化芸術の振興方策について
- 各地域の文化芸術活動の推進について
- 文化ボランティアの推進のための環境整備等

2. 主催者

文化庁、都道府県等文化行政担当部局

3. 開催地（平成17年度は下記テーマ別で開催）

- ・ 7月15日 福岡県「文化芸術と子どもをつなぐ～博物館と学校教育の連携～」
- ・ 7月28日 青森県「高校生と長官の文化芸術に関する意見交換」
- ・ 10月24日 滋賀県「文化会館に期待される役割とその評価」
- ・ 11月 5日 群馬県「公共文化政策を考える～アートNPOが公共政策を担うために」
- ・ 11月16日 鳥取県「地域づくりと文化」

4. 出席予定者

- 文化庁 …河合隼雄文化庁長官以下関係官
- 地方公共団体…都道府県及び市町村の文化行政関係者
- 文化施設関係者、文化芸術関係団体、文化ボランティア実践者、その他地域住民

5. 懇談会の形式

- ①講話 …河合隼雄文化庁長官
- ②アトラクション（地域の伝統芸能等） …地域文化芸術関係者
- ③文化芸術活動の実践発表 …地域文化芸術関係者
- ④文化芸術の振興に対する要望、意見交換 …会場参加者より

「文化芸術懇談会」開催地一覧

1. 平成14年

・四国ブロック	香川県	4月12日(金)
・近畿ブロック	京都府	5月20日(月)
・東北ブロック	秋田県	6月3日(月)
・九州ブロック	熊本県	6月26日(水)
・中国ブロック	広島県	7月22日(月)
・中部ブロック	静岡県	8月5日(月)
・関東ブロック	茨城県	8月30日(金)
・北陸ブロック	石川県	10月22日(火)
・北海道ブロック	北海道	10月29日(火)

2. 平成15年

・中国ブロック	山口県	1月14日(火)
・九州ブロック	宮崎県	3月11日(火)
・近畿ブロック	大阪府	3月17日(月)
・東海・甲信ブロック	三重県	5月23日(金)
・北陸ブロック	新潟県	5月30日(金)
・四国ブロック	愛媛県	6月18日(水)
・北海道・東北ブロック	岩手県	7月16日(水)
・関東ブロック	埼玉県	7月30日(水)
・沖縄ブロック	沖縄県	11月11日(火)

3. 平成16年

・九州ブロック	大分県	4月13日(火)
・北海道・東北ブロック	福島県	5月31日(月)
・近畿ブロック	兵庫県	6月10日(木)
・関東ブロック	千葉県	6月23日(水)
・中国・四国ブロック	岡山県	8月2日(月)
・中部ブロック	愛知県	9月14日(火)

4. 平成17年

・第25回「文化芸術と子どもをつなぐ～博物館と学校教育の連携～」	福岡県	7月15日(金)
・第26回「高校生と長官の文化芸術に関する意見交換」	青森県	7月28日(木)
・第27回「文化会館に期待される役割とその評価」	滋賀県	10月24日(月)
・第28回「公共文化政策を考える～アートNPOが公共政策を担うために」	群馬県	11月5日(土)
・第29回「地域づくりと文化」	鳥取県	11月16日(水)

5. 平成18年

・第30回「地域文化振興と文化施設の新しいあり方」	長崎県	6月5日(月)
・第31回「地域から文化で日本を元気に！」	神奈川県(横浜市)	6月13日(火)
・第32回「文化財で地域を元気に～文化財の保護と未来への継承～」	奈良県	8月8日(火)(予定)

(別紙)



プレス発表資料

平成18年7月6日
文 化 庁
奈良県文化教育記者クラブ同時配布

文化芸術懇談会（奈良県）の開催について（ご案内）

1. 趣 旨

文化芸術懇談会を奈良県にて開催し、文化庁長官と関西地区を中心とした文化行政文化団体等を中心とした懇談を行い、今後の文化芸術の振興方策に関する意見交換を行う。

2. 主催者

文化庁，奈良県

3. 開催期日

平成18年8月8日（火）15:00～17:40

4. 会場

奈良県新公会堂「能楽ホール」

〒630-8212 奈良市春日野町101 TEL：0742-27-2630 FAX：0742-27-2634

5. 参加者

全国の地方公共団体の文化行政担当者，教育関係者，文化芸術関係団体，文化ボランティア実践者，アートコーディネーター，文化芸術に関心を持つ方々。300名程度。

6. 日程

①受付 14:30～15:00

②開会行事（主催者挨拶） 15:00～15:05

③文化庁施策説明 15:05～15:15

「高松塚古墳及びキトラ古墳への対応について」

④シンポジウム 15:15～16:30

テーマ「文化財で地域を元気に～文化財の保護と未来への継承～」

パネリスト/河合隼雄（文化庁長官），石澤良昭（上智大学学長），柿本善也（奈良県知事）

コーディネーター/足立久美子（歴史街道推進協議会）

～休憩～ 16:30～16:40

⑤公聴会 16:40～17:40

テーマ「文化芸術の振興に関する基本的な方針の見直しについて」

河合隼雄（文化庁長官），青木 保（早稲田大学教授），白石和己（山梨県立美術館長）

⑥閉会 17:40

7. 参加申し込み先

奈良県教育委員会事務局文化財保存課 表野，塚本

〒630-8502 奈良県奈良市登大路町30番地

TEL：0742-27-9866

E-mail：bunkaz@office.pref.nara.lg.jp